

被災地支援活動の一部は、住友商事・東日本再成ユース
チャレンジプログラムから助成を受けています。

ボラスステ新聞

2016年度
第 3 号

二〇一五年
六月二九日
発行

ボランティア

としての機能

～被災地バスツアーに参加して～

私は、バスツアーを通して、語り部の長沼さんのお話が、とても印象に残りました。

それは、長沼さんが熊本地震の被災地に、実際に行かれた時のお話です。「現地では物資の仕分けが行われていた。そこには、自衛隊、役所、ボランティアの人がいたが、それぞれに遠慮しあっていたなかなか作業が進んでいなかった。だから、現地に行ってもボランティアをするこゝとができないという、『ボランティアとしての機能』が果たされていない状態だった。このようなことは、東日本大震災と阪神淡路大震災でも起きていた。このようなすれ違いを繰り返さな

いたために、被災した方への確かな支援と、役割分担などの支援する側のシステムを作るべきだ。」というお話でした。

私は、長沼さんの言葉を受け、活動後に、役割分担や支援ができていたかを考える必要があると思いました。また、「支援する側のシステム」についても考えていきたいと思っています。

そして、震災から五年たった今、まだ仮設住宅に住んでいる方がいること、かさ上げ作業が遅れていることを知り、「復興」への道のりがまだまだ程遠いことなのだと感じました。
(人間心理学科二年 三好澄香)



第二回 美田園北団地での お茶会♪

復興公営住宅でのお茶会は、私たち学生と住民さんが交流することはもちろん、色々な仮設住宅から来られた方同士で顔見知りになってほしい、という想いで行われています。

私は、この復興公営住宅を初めて訪れたこと、久々にボランティアに参加したことで、とても緊張してしまいました。

お茶会は公営住宅の談話室で行われました。そこに、二〇人ほどの住民さんと学生がいたので、住民さんといつもより近い距離で交流することができました。最初は、緊張していたこともあってなかなか話を切り出せませんでしたが、勇気を出してお話ししてみると、すんなりお



話してきて安心しました。ただ、狭い空間の中で大人数がいっせいに話していたので、声が聞き取りづらく大変でした。

今回のお茶会は、住民さんといつもより近くでふれあうことができました。また、次回は外などの広い空間でもっとたくさんの方とお話したいと思いました。

(現代社会学科2年 後藤竹雄)

「ボラスステ被災地バスツアー」とは！

五月五日、語り部さんの話を聞きながら、被災地である関上の日和山や「関上の記憶」を訪問しました。その後、仮設住宅にて学習会・住民さんをお呼びしてお茶会もしました。

さて今回は、被災地の現状を知るバスツアーと、公営住宅に移った方々とのお茶会についての記事です！
参加したメンバーにとって、どちらも普段とは違った刺激や発見があったのではないかと思います。

最近、湿度が高く曇り空が続く、一日を長く感じます。また、雨の日も多くなり水溜りにはまることも増えるので、今年は何か梅雨を楽しむ方法を考えながら過ごそうと思います。(人間心理学科2年 田中遥)